

各記念賞について

記念賞は、各学科及び研究科などから推薦された学業、人物ともにすぐれた学生に授与される。創立者はじめ神戸女学院にゆかりの深い方々を記念して内外から寄せられた寄付金を基金としている。授与額は、アメリカン・ボード、ラバーツ、ダッドレー、ホルブルック、丹部トモ、鈴木豊子の各記念賞は 5 万円、ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞は 30 万円、他は 10 万円である。

(1) アメリカン・ボード記念賞

創立 85 周年に際し、アメリカのキリスト教宣教団体アメリカン・ボード(米国伝道会)から寄付された 4,000 ドルを基金とする。チャペルアワーに出席し、神戸女学院の建学の精神をよく学んだ全学部生を対象に募集する論文により、宗教活動委員会が選考する。

(2) ラバーツ記念賞

14 年にわたり本大学の英語教育に奉仕されたメイ・ラバーツ先生の夫君故フロイド・ラバーツ牧師を記念して、マサチューセッツ州ピッツアフィールド組合教会の人びとから寄せられた基金に基づく賞である。

この賞を通じて学生がキリスト教活動に奉仕することを願い、チャプレン室から推薦された 3,4 年次のキリスト者および求道中の学生に与えられる。

(3) タルカット記念賞

この賞の基金は、神戸女学院の創立者イライザ・タルカット先生を記念するために、グレイス・F・リチャーズ夫人らアメリカ在住の諸姉から寄付されたものである。これを、アメリカにある神戸女学院の支援団体 Kobe College Corporation(現 KCC-JEE)が管理し、その利子を賞に充てている。グローバル・スタディーズ学科 3 年次の学生に与えられる。

(4) ダッドレー記念賞

ジュリア・エリザベス・ダッドレー先生は、アメリカン・ボードから日本にイライザ・タルカット先生とともに派遣され、神戸に女子寄宿学校(後の神戸女学院)を創立した。そこでは舎監の役割を担い、生徒たちから母親のように慕われたという。この賞はこのダッドレー先生を記念して設けられ、大学研究科比較文化学専攻博士前期課程 2 年次の学生に与えられる。

(5) ブラウン記念賞

アメリカン・ボード婦人宣教師であるエミリー・マリア・ブラウン先生は 1882 年に来日し、第 3 代校長(1894 年からは院長)となり、神戸英和女学校(後の神戸女学院、1894 年改称)にカレッジ課程をおき、本学の女子高等教育の礎を築いた。この賞はブラウン先生を記念して設けられ、

総合文化学科 3 年次の学生に与えられる。

(6) デフォレスト記念賞

神戸女学院第 5 代院長シャーロット・バーجز・デフォレスト先生の神戸女学院に対する貢献を記念するために、国内外の有志から寄せられた寄付金 108 万円を基金としてつくられた賞である。英語学科 3 年次の学生に与えられる。

(7) ホルブルック記念賞

アメリカン・ボード婦人宣教師であるメアリー・アンナ・ホルブルック先生は、マウントホリヨーク大学卒業後、ミシガン大学で医学を学び、アメリカの婦人として初めて医学博士号を取った人の一人と言われる。1892 年から 1896 年まで、1907 年から 1910 年までの 2 度にわたって神戸女学院の教師となり、本学自然科学教育の基礎を築いた。この賞はホルブルック先生を記念して設けられ、人間科学研究科博士前期課程 2 年次の学生に与えられる。

(8) 丹部トモ(C41)記念賞

丹部トモ先生は、1924 年に神戸女学院大学部をご卒業後、1935 年に本学に就任、1963 年に神戸女学院大学初の公選によって第 3 代学長に就任された。学長として大学院の設置に尽力、種々の改革を実行して、神戸女学院大学を名実ともに女子高等教育機関にふさわしい大学とするに大きな功績があった。この賞は、1997 年 1 月に 95 歳で永眠された先生を記念して設けられたものである。対象は、文学研究科英文学専攻博士前期課程 2 年次の学生に与えられる。

大学研究科比較文化学専攻博士前期課程 2 年次の学生に与えられる。

(9) 草間世良(C30)記念賞

この賞は、神戸女学院専門部 1913 年卒業生草間世良氏を記念して、令嬢の安川加寿子氏(ピアニスト)から寄付された基金によるものである。草間氏は在学中より語学や音楽に堪能で、卒業後はアメリカの大学に学んだ。後に外交官夫人となり、自らも夫君の任地フランスの国際連盟委員会で活躍した。心理学科 3 年次の学生に与えられる。

(10) 家庭会大学部会記念賞

神戸女学院には、創立 50 周年を期して在学生の保護者を中心に組織された家庭会がある。現在は、神戸女学院家庭会の下に大学部会、中高部会(PTA)の 2 つの活動母体に分かれている。1984 年度末より大学部会から基金として 100 万円が寄せられ、その利子を賞として授与することとなり、以後毎年度末に新たな基金が追加されることになっている。総合文化学科 3 年次の学生に与えられる。

(11) ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞

ハンナ・ギュリック・スエヒロ氏は、1891、2 年頃、神戸女学院で音楽を教えていた。結婚後ながらハワイに住み、教育に尽くした。スエヒロ氏と娘のエミー・スエヒロ氏の遺産の一部が、遺言により、信託財産として一定期間管理された後、KCC に移管され、神戸女学院で音楽を専攻する学生の奨学金に充てられることとされていた。1976 年よりこの賞が設けられることになり、オーディションにより選考された音楽学部 4 年次学生及び音楽研究科修士課程 2 年次生に授与されている。

(12) 八代記念賞

1973 年に就任、1991 年 3 月まで本学音楽学部教授として在職し、貢献された八代みゆき氏の寄贈により、2009 年より舞踊専攻の充実のために設けられたものである。音楽学部舞踊専攻 4 年次の優秀な学生に与えられる。

(13) 鈴木豊子記念賞

この賞は、神戸女学院大学音楽学部出身の鈴木豊子氏を記念して、令嬢の太田津根子氏から寄付された基金により、2010 年より設けられたものである。音楽学部 4 年生で、伴奏分野において優秀である学生に与えられる。

(14) 市川民慈子(女 52)記念賞

市川民慈子先生は、1935 年に本学高等女学部を卒業後、医学博士の学位を取得され、1949 年より神戸女学院大学で生理学や体育講義等を担当して、学生の健康への意識を高められた。1983 年に家政学部児童学科教授を退かれ、本学名誉教授となられた。この賞は、遺贈により 2011 年 11 月に 94 歳で召天された先生を記念して設けられたものである。環境・バイオサイエンス学科 3 年次の学生に与えられる